



第26回フォーラム 第I部 全体会 報告

つながりの輪を拡げて新しい一步を踏み出す

保健師 川人 真知子

いざ！フォーラムへ

今年に入って私が住む関西地方では、6月の大阪府北部地震、7月の豪雨、9月の台風21号上陸と自然災害が続きました。特に台風による風は地震と勘違いしたほどの揺れで、窓の外をトタン屋根の一部が飛んでいく様子には命の危険を感じました。現在関わるつどいの広場で、台風の翌日に来たお母さんたちが「怖かったね」「停電で驚いた」「子どもが泣いてなくてよかった」などと話し合う様子を見ると、不安な気持ちを吐き出して互いに思いを共有できる場があることは大切なことだなと感じます。今回のフォーラムは、待望のBP2プログラムの発表と、普段BPの取り組みで連携をとる方々に会えること、初めてのフォーラム参加で、“どうかいいお天気でありますように！”と願い心待ちにしていました。

当日は曇り空で蒸し暑さを感じる中、会場内のエアコンの涼しさが快適なほどでした。受付と会場入り口ではBPプログラムの新テキストが発売され、表紙はお馴染みの赤ちゃんのイラストですが、カラー図解と206ページものボリュームにまず驚きました。気になって本を開くと、目次を見ただけでも幼児期までの内容を網羅した充実度がわかり、作成に携わった方々のご尽力に感謝するばかりです。

新プログラムへの期待

午前の全体会では「今なぜ 親子の絆づくりか？(Part1) —BPプログラム8年間の実践報告と新プログラムの発表—」と題して、こころの子育てインターねっと関西(KKI)代表である原田正文さんからの基調報告と、続くシンポジウムではKKI運営委員である中川千恵美さんをコーディネーターに、「今求められている支援とは？」と題して、各地でBPプログラムを実践されている4名の方が現状と取り組みについて発表してくださいました。

基調報告ではプログラムの新体系に関してコメントがあり、今までのBPプログラムは「赤ちゃんがきた！(BP1プログラム)」になり、今回新しくできたプログラムは「きょうだいが生まれた！(BP2プログラム)」として、これら2つを合わせたものが「親子の絆づくりプログラム(BPプログラム)」となります。

まずBP1に関して、発表から8年間の経緯と成果が報告され、年々増加しているプログラムの実施数と参加者数の推移が示されました。平成29年度は790回実施、8939名の参加でした。これは、第1子を育てる母親で推定100人中1~2名の方が参加されているということ



になります。都道府県別の実施状況も示され、北は山形県から南は沖縄県まで着実に実施の輪が広がっています。この数字の奥に、ファシリテーターの努力と、開催に携わった方々のご理解と協力、何よりこのプログラムを必要として参加されたお母さん方の思いを強く感じます。

BP2が生まれた経緯は、お母さん方の声がかきかれました。BP1は初めて子育てをする母親が対象ですが、BP1開始当初より第2子以降の赤ちゃんを育てるお母さん方から「私も参加できるプログラムはないのか」という要望が寄せられていました。下の子のお世話をしながら自我が芽生える幼児期の上の子への対応に苦慮するお母さん方の思いを、ファシリテーターも受け止めてきました。このため、BP1を実施できるところが増えてきた時点で、BP2の取り組みが始まりました。

BP2の枠組みは、第2子以上2~5か月の赤ちゃんとその母親5~20組が対象で、上の子に対する一時保育の用意が必要です。もし幼稚園や保育園に通っていれば保育を必要としない方もいるでしょう。BP1と同じ毎週1回2時間、同じ曜日と時間帯で実施しますが、BP2では連続5回となります。テーマは第1回「新しい出会い」、第2回「子どもとの関わり方」、第3回「子どもの心の発達としつけ」、第4回「私のストレス」、第5回「親として、より良く生きる」となり、前半100分は構造化されたプログラム、後半20分は交流・質問タイムで、心の発達論をベースとした参加者中心型です。有資格のファシリテーター2名で進行し、参加者が10組までならファシリテーター1名とアシスタント1名で実施できる点はBP1と同じです。BP2ファシリテーター養成講座は既に案内されていますが、今年度の受講はBP認定ファシリテーターに限られ、来年度からBPファシリテーター養成講座受講者にも拡大する予定です。BP1と2で共通となる参加者用の新テキストは2019

年4月から使用しますが、1年間は現在のテキストも使えるように移行期間が設けられます。乳幼児期に焦点をあてたプログラムとして、今後さらに「親子の絆づくり」と子どもの心に「心の安定根」がはぐくまれることが期待されます。

これまでの関りをつなぐりをベースに

シンポジウムでは、まず、「B P中野の会」代表の庄里子さんから東京都中野区での取り組みが紹介されました。現在は区の委託を受けて実施されていますが、始まりは区のベビーシッター・ファシリテーター養成講座を受講したメンバーが有志で立ち上げた子育て支援グループでした。メンバーの一人が2011年にB Pファシリテーター養成講座を受講され、お母さん方との関わりの中でB Pの必要性を感じた他のメンバーの方が続いて資格を取得されました。その後、会場の確保や参加者を集める中、関係機関の理解を得て実施に至るまで多くのご苦労をされています。私が感動したのは、会場となった児童館職員の方が、B Pを受講された母親が笑顔に変化していく様子に気づかれたこと、母親同士の口コミで徐々に行政の信頼を得ていかれたエピソードでした。

「N P O法人まある」代表の宮村登美子さんからは、岐阜県多治見市におけるB Pプログラムの展開が報告されました。市の子ども情報センター市民委員会から発足した子育て支援グループが始まりで、その後広場の委託運営もされています。スタッフがB Pの必要性を感じ市での開催に向けて動かれましたが、開催実現への大きなポイントとして①補助事業としてファシリテーター養成講座を行い行政担当者、保健センター保健師の参加があったこと ②広場と他機関がそれまで培ってきたつながり、をあげられました。平成23年から市の補助事業としてB Pを実施されていますが、平成28年からは親子ふれあい講座開催事業として委託を受け年間7回実施しています。行政の担当者は異動もあるため、年度末に直接顔を合わせての実績報告会を開くといった丁寧なフォローをされている点が、とても参考になりました。

「静岡県磐田市子育て支援課」保健師の鈴木恵美さんからは、市での親子の絆づくりプログラムの成果と課題について報告されました。平成26年に、子育て支援センター職員や主任児童委員など24名の方がB Pファシリテーター養成講座を受講され、主催も行政から地域へと移行されているとのお話に興味深く伺いました。プログラムの開催数・受講者数は共に年々増え、今年度は開催29回と296組の参加が見込まれ、実に第1子の2人に1人が参加中とのことでした。これには会場から感動の声が湧きあがりました。地域、ファシリテーター、市の3者がそれぞれの役割を明確にし、お母さんと赤ちゃんを中心にうまく連携されていて参考になりました。

「J C H O大阪病院」小児科医師の原田大輔さんからは、「医療機関が主導するB Pプログラム」と題して報告されました。普段はB Pをご存じない医師たちを前にしたアウェーな場が多いそうで、本日は会場からのあ

たかい眼差しを感じていただけたかと思います。JCHO大阪病院は、大阪市西部をカバーする中核病院として虐待疑いや要養育支援の通報ケースにも対応され、総合病院主導では唯一6年間に渡りB Pを開催されています。2015年から実施したアンケート調査では、参加者の受講前後の変化や不参加者との比較検証もふまえ、B Pは参加者の満足度を得るプログラムであり、愛着形成の促進と子育て仲間の増加、育児知識の定着が見られることが判明しています。病院では妊娠中からの関りを通して実施できる利点がありますが、ファシリテーターの養成や、ファシリテーターをやるスタッフが本来担っている仕事を補填する問題、他部署や他職種との連携といった課題があげられました。今後、他の病院や行政との連携を図ることで、虐待が起きる前の一次予防の関りを目指されていることに大変心強く感じました。

質疑応答では、総合病院へのアプローチはどのようにしたらよいか？ ファシリテーターの応援体制について、関係者間で実績報告会を開く際のポイント、参加者が多いその要因について、などが出されました。

最後に、中川千恵美さんからコメントがあり、「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書（厚生労働省、平成20年3月）」に触れ、地域との連携の重要性についてもお話がありました。子育て支援においては、子育て世代包括支援センター、要保護児童対策地域協議会の活用も意識すること、また各地の実績とノウハウを参考にしていくことも期待されました。

思いを形にできるように

行政の保健師として勤務していた頃、育児相談で初めて子育てするお母さんの家を訪問しました。生後2か月の子を抱き「子育てってこんなはずじゃなかった」と泣いて叫ばれました。子どもや家族のこと、毎日の生活の様子を2時間近く語り、その後も支援は続きました。15年以上も前の話ですが、今でも思い出される言葉です。子どもの成長と共に親も成長していくのだと思いますが、現実は一人で子育てに向き合い不安や孤独感とストレスが増えています。支援する側は何ができるのか？ たどり着いたのがB Pプログラムでした。今も親が直面する状況は変わっていないような気がします。自分の子育て期にも受けたかったこのプログラムを一人でも多くのお母さんに届けたい！ 本日のフォーラムは自分の気持ちを新たに奮い立たせてくれました。

現在、大阪市北区にて行政主催では大阪市初となるB P 1プログラムを実施するべく、区が中心となって準備を進めています。私も微力ながらお手伝いをさせていただいていますが、引き続き関係者や多くの方のお知恵と経験を参考にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

